

HANDMADE "MU"



No_ **01**
Special Report.



庭の風格を引き立てる
和の威厳ある佇まい

3世帯8人が暮らす家を訪れました。昨年春に引き渡しを受けたばかりの家と比べ、庭はしっかり時代を経ており、古い茶室があります。とはいえ、家が庭の風格に負けているわけでも、反対に庭の趣を削いでいるわけでもありません。

むしろ家は、庭のそれに見合う風格を備えながら、庭の風情をいっそう引き立てているのです。

外観同様に和の威厳を思う玄関では、3世代のやさしい笑顔が迎えてくれました。



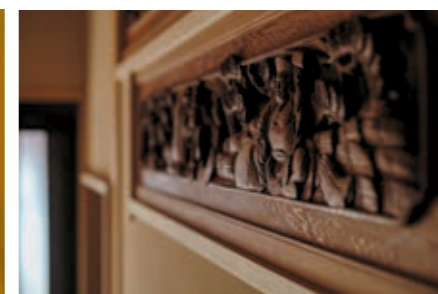
Builder:
井坪工務店

Note:
飯田市
3世帯8人暮らし

家族が受け継ぐ
庭と家を守る仕事



折目正しい玄関は、井坪工務店が手がける和の家「MU」の特徴の一つ。一歩足を踏み入ると自ずと背筋が伸びる。柱や梁などに旧宅の古材を活用している。



先々代の家の面影を残し
先代の庭を愛でて暮らす家

老舗造園会社を営む家族のお宅。その場所には以前、現社長の祖父が建てた家がありました。社長の跡を継ぐ長男家族との同居が決まったことで、旧宅を建て替えることにしました。

「おじいさんがつくった家だから、その面影を残したい」。家族の総意で、前のお宅にあった欄間彫刻や柱、梁などを家の各所に使っています。

3世帯8人がくつろぐ29畳のリビングダイニングから眺めるのは、社長の父が手がけた、優雅な中にも慎まじさを感じさせる美しい日本庭園です。その庭はほぼそのままにして新築し、旧宅では一番日当たりが良く、先代の庭がいつでも眺められる三間続きの座敷のあった場所を、家族が集う場としています。

初めに先々代の家がありました。その家を生かすように先代が庭をつくりました。そして先代の庭を家族で愛でるべく当代と次代が家をつくりました。その仕事を請け負ったのは井坪工務店です。その家は、大工がつくる和の家「MU」です。



H家では長年、造園業を営んできました。樹木医の資格をもった社員も多く、地元である飯田下伊那をはじめ、県内外のお客様からの信頼も厚い。



ダイニングから眺める庭は、
現当主の父が手がけたもの。
この家を建てるにあたり、ほん
のわずか手を加えただけでそ
のまま残し、食卓からの風景に
彩りを添えている。



時折、隣家に住む次女家族が遊びに来て食事会を
する。キッチンに立つのは次女夫妻。ご主人はパティシ
エだが、イタリアンをはじめ食事づくりも得意。



家あつての庭であり 庭あつての家であり

造園業も大工も木を相手にします。造園では地に立つ生きた木と向き合い、大工は家として生きる木を扱いますが、どちらも職人の仕事であることに変わりない、とこの家の当主は言います。「木は人間よりも長生きです。だから我々は敬意をもって木に接します。木がその命を存分に生きられるように、私は自分の腕前を上げる努力をします。そんな造園業の職人と同じ熱い思いを井坪さんの職人に感じました。それに井坪さんは、うちの会社と一緒に職人の直轄部隊が仕事の前面に立つことにも信用が置けました」

当主の言う敬意とは、先人の仕事や自分とは違う分野の仕事にも及びます。この家では代々、腕の良い職人の手による家に相応しい庭をつくることを生業としてきたし、我が家においては先代が手塩にかけた庭と応分の家をつくる相手に井坪工務店を選んだのですから。
家あつての庭、庭あつての家なのです。そして両者のあるべき関係を結ぶものが、木の存在であり、職人の心と技なのでしょう。



2階は長男家族4人の住まい。互いのプライバシーを保てるようキッチンなども設置している。

いと思います。そんな思いに応じて、それらを守ってお手伝いをするのも、井坪さんや私たちの仕事であるわけです」
この家にはもう一つ、人と家をつなぐものがありました。食卓を彩る料理です。隣家に住む次女家族が遊びに来ると、ときに彼女のご主人が腕を振るい、皆で集まって一緒に食卓を囲みます。さらに盆や正月には、遠くに暮らす次男夫妻も入れて総勢14人の食事会になるそうです。あの庭が見える、あの旧家の古材をあしらったこのリビングダイニングで。



29畳もあるLDKなら、子どもたちはつい走り回りたくなる。きょうだいでいとこ同士で追いかっこを始めるのはいつものこと。



立ち木への、材木への、先人の仕事への敬意は、日々庭を見ながら住む人にも伝わります。暮らしの中で、庭を大切にしたい、家を大切にしたいとの思いが自ずと生まれ、少しずつ育っていくと、ご主人は言います。
「庭も家も維持管理が大変だから、庭を大切にすると人は少なくなりました。でも、木の家のぬくもりに触れて暮らし、庭が見せる四季の移ろいに親しむと、人は心に余裕ができるんです。だから、家や庭をこの先も守っていきたくて、」

庭や家を大切にすると
心に余裕ができる

